

令和2年度登録販売者試験問題

群馬県

(令和2年12月20日午後)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 2 この試験問題は問61から問120までです。解答は、解答用紙の「マーク例」にならって、解答欄の解答番号を1ヶ所ぬりつぶしてください。指示された方法以外での記入や、1つの問題に複数解答した場合には、その問題の解答は無効になります。
- 3 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消しあとが残らないようにプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておいてください。
- 4 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 5 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

主な医薬品とその作用（40問）

【問6 1】 かぜ薬に含まれている次の鎮咳^{がい}成分のうち、麻薬性鎮咳^{がい}成分と呼ばれ、依存性があるものとして正しいものはどれか。

- 1 ノスカピン
- 2 デキストロメトルファン臭化水素酸塩
- 3 クロペラスチン塩酸塩
- 4 チペピジンヒベンズ酸塩
- 5 コデインリン酸塩

【問6 2】 かぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 発熱、咳^{せき}、鼻水など症状がはっきりしている場合には、かぜ薬（総合感冒薬）が選択されるのが最適である。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家は、インフルエンザの流行期に小児用かぜ薬を販売する場合、解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなる製品の選択を提案する等の対応を図ることが重要である。
- c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和のほか、ウイルスの増殖抑制や体内からの除去を目的として使用される医薬品の総称である。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問 6 3】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

1錠中	
エテンザミド	200 mg
アセトアミノフェン	80 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	30 mg
無水カフェイン	40 mg

この解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが作用の中心となっている他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが弱い。
- b アセトアミノフェンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあり、日頃から酒類（アルコール）をよく摂取する人で起こりやすい。
- c 無水カフェインは、中枢神経系を刺激して頭をすっきりさせたり、疲労感・倦怠感^{けん}を和らげることなどが目的で配合されており、鎮痛作用には関与していない。
- d アセトアミノフェン、無水カフェイン、エテンザミドの組合せは「ACE処方」と呼ばれる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 6 4】 解熱鎮痛薬及び頭痛に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 頭痛が頻繁に出現して 24 時間以上続く場合や、一般用医薬品を使用しても痛みを抑えられない場合は、自己治療で対処できる範囲を超えていると判断される。
- b 解熱鎮痛薬は、頭痛に対し、症状が軽いうちに服用すると効果的であるので、予防として発症する前から積極的に使用するべきである。
- c 解熱鎮痛薬の連用により頭痛が常態化することがあるので注意を要する。
- d 桔梗湯^{ききょうとう}は、体力中等度以下で手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔吐^{おう}、しゃっくりに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問65】 ヒスタミン及び抗ヒスタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 生体内情報伝達物質であるヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚醒^{せい}に関する部位で神経細胞の刺激を介して、覚醒^{せい}の維持や調節を行う働きを担っている。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、慢性的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、妊娠中にしばしば生じる睡眠障害も適用対象である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問66】 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 眠気防止薬には、眠気を抑える成分として、チアミン塩化物塩酸塩が配合されている場合がある。
- b カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の減少をもたらす。
- c かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を使用するのは適切ではない。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	正	正	誤

【問67】 めまい（眩暈）及び鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑える作用を示す。
- b 吐きけの防止に働くことを期待して、ピリドキシリン塩酸塩が補助的に配合されている場合がある。
- c 乗物酔いに伴う一時的な症状としてでなく、日常においてめまいが度々生じる場合には、基本的に医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- d アミノ安息香酸エチルは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問68】 小児の疳及び小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小児鎮静薬として使用される漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児に使用しても問題ない。
- b 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳の虫の症状が現れることがある。
- c 小建中湯は、体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜泣きに適すとされる。
- d 抑肝散を小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、さらに1週間位服用を続ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問69】 咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤及び生薬成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ゴミシはヒメハギ科のイトヒメハギの根を基源とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- b 五虎湯は、体力中等度以上で、咳が強くでるものの咳、気管支喘息、気管支炎、小児喘息、感冒、痔の痛みに用いられる。
- c 麦門冬湯は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされる。
- d マオウは、中枢神経系に対する作用が他の気管支拡張成分に比べ弱く、依存性がない。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問70】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにして使用される。
- b 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- c 口腔咽喉薬には、気管支拡張成分や去痰成分が配合されている製品がある。
- d 噴射式の液剤は、口腔の奥まで届くよう、息を吸いながら噴射して使用する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが用いられる。
- b 喉の粘膜を刺激から保護する成分として、セチルピリジニウム塩化物が配合されている場合がある。
- c ポピドンヨードが口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の治療に悪影響（治療薬の効果減弱など）を生じるおそれがある。
- d 口腔咽喉薬に抗ヒスタミン成分が配合されている場合、咽頭における局所的な作用を目的としているため、内服薬の抗ヒスタミン成分と同様な副作用が現れることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 7 2】 強心薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユウタンは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
- c シンジュは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問73】 高コレステロール改善薬及びその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b パンテチンには、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c トコフェロール酢酸エステルは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^そ瘦身効果を目的として使用される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問74】 貧血用薬（鉄製剤）及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、貧血用薬（鉄製剤）は食後に服用することが望ましい。
- b 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- c 貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄製剤）を使用することは適当ではない。
- d 服用の前後30分にアスコルビン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収が悪くなることがあるので、服用前後はそれらの摂取を控えることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 7 5】 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コウカには、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- c ユビデカレノン^{ユビデカレノン}は、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- d 七物降下湯^{しちもつこうかとう}は、小児向けの漢方処方ではなく、15歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 7 6】 婦人薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
- b 鎮痛・鎮痙^{けい}作用を期待してシヤクヤクが配合されている場合がある。
- c 利尿作用を期待してオウレンが配合されている場合がある。
- d 女性ホルモン成分の長期連用により乳癌^{がん}や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 7】 アレルギー及びアレルギー用薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 蕁麻疹^{じん しん}については、アレルゲンとの接触以外に、皮膚への物理的な刺激によって生じるものも知られている。
- 2 アレルゲンを厳密に特定するには医療機関における検査を必要とする。
- 3 アレルギー症状が現れる前から予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することは適当であるが、登録販売者の指導の下で行われる必要がある。
- 4 蕁麻疹^{じん しん}や鼻炎等のアレルギー症状に対する医薬品の使用は、基本的に対症療法である。

【問78】 内服アレルギー用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分として、プロメラインが用いられる。
- b 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、カンゾウが配合されている場合がある。
- c ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えるとともに、鼻腔内の刺激を伝達する交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑える目的で用いられる。
- d アゼラスチンが配合された内服薬を服用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問79】 次の表は、ある点鼻薬に含まれている成分の一覧である。

100mL 中	
クロモグリク酸ナトリウム	1,000 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	250 mg
ナファゾリン塩酸塩	25 mg

この点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合されている。
- b クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- c ナファゾリン塩酸塩は、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合されている。
- d この点鼻薬を過度に使用すると、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 8 0】 一般用検査薬及び検査値に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 尿中のタンパク値に異常を生じる要因のうち、尿路に異常が生じたことによるものとして腎炎やネフローゼがある。
- b 一般用検査薬は、一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで疾病を早期発見するためのものである。
- c 妊娠検査薬は、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することができる。
- d 一般用検査薬の検体は、尿、糞便、涙液、血液などを用いる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 8 1】 胃に作用する薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 制酸成分は、中和反応によって胃酸の働きを強めることを目的としている。
- b 制酸成分を主体とする胃腸薬を炭酸飲料で服用することは適当でない。
- c センブリが配合された散剤は、味や香りが強いいため、オブラートで包んで服用することが適当である。
- d 一般用医薬品には、制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている場合もある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 2】 健胃を目的とした生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オウバクは、ミカン科のキハダ又はフェロデンドロン・キネンセの周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b センブリは、リンドウ科のセンブリの開花期の全草を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- c ゲンチアナは、クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。
- d ソウジュツは、ミカン科のウンシュウミカンの成熟した果皮を基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 8 3】 ヒマシ油に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヒマシ（トウダイグサ科のトウゴマの種子）を圧搾して得られた油を用いた生薬である。
- b 小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。
- c 母乳を与える女性では、吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を引き起こすおそれがある。
- d 瀉下作用は弱いため、妊婦または妊娠していると思われる女性に使用される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 8 4】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブチルスコポラミン臭化物は、交感神経の伝達物質であるアドレナリンと受容体の反応を妨げることで鎮痛鎮痙作用を示す。
- b ロートエキスにより母乳が出にくくなることがある。
- c パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すほか、胃液分泌を抑える作用により胃酸過多や胸やけに対する効果も期待できる。
- d 鎮痛鎮痙作用を期待して、エンゴサク（ケシ科のエンゴサクの塊茎）が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 8 5】 浣腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるおそれがある。
- c 肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときにグリセリンが配合された浣腸薬を使用すると、溶血を引き起こすおそれがある。
- d ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問 8 6】 駆虫成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a サントニンは、肝臓病の人では、肝障害を悪化させるおそれがある。
- b カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c ピペラジンリン酸塩は、アセチルコリン伝達を亢進させ、蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- d パモ酸ピルビニウムは、赤～赤褐色の成分で、尿や糞便が赤く着色することがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 8 7】 次の漢方処方製剤のうち、胃の不調を改善する目的で用いられるものの正しい組合せはどれか。

- 1 猪苓湯、竜胆瀉肝湯
- 2 安中散、人参湯、六君子湯
- 3 牛車腎気丸、八味地黄丸、六味丸
- 4 疎経活血湯、釣藤散

【問 8 8】 痔の薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 注入軟膏では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて全身的な影響を生じることがある。
- b 局所麻酔成分には、リドカインがある。
- c 局所刺激成分には、クロタミトンがある。
- d 組織修復成分には、アラントインがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 8 9】 泌尿器用薬に含まれている成分のうち、利尿作用のほかに、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる生薬成分はどれか。

- 1 モクツウ
- 2 ソウハクヒ
- 3 サンキライ
- 4 ウワウルシ

【問 9 0】 眼科用薬に含まれている成分と、その主な配合目的に関する次の組合せのうち、正しいものはどれか。

成分	主な配合目的
1 スルファメトキサゾール	— 目の調節機能を改善する作用
2 ポリビニルアルコール	— 肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用
3 イプシロン - アミノカプロン酸	— 炎症の原因となる物質の生成を抑える作用
4 ホウ酸	— 炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用

【問91】 次の表は、ある眼科用薬に含まれている成分の一覧である。

ビタミンB ₁₂	0.02 %
ネオスチグミンメチル硫酸塩	0.005 %
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	0.5 %
ビタミンB ₆	0.05 %
パンテノール	0.05 %
L-アスパラギン酸カリウム	0.5 %
タウリン	0.5 %
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.03 %
イプシロン-アミノカプロン酸	1.0 %
グリチルリチン酸二カリウム	0.1 %
硫酸亜鉛水和物	0.05 %
塩酸テトラヒドロゾリン	0.03 %

この眼科用薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミンB₁₂は、目の調節機能を助ける作用を期待して用いられる。
- b コンドロイチン硫酸エステルナトリウムは、ヒスタミンの働きを抑えることにより、目の痒みを和らげることを期待して用いられる。
- c 硫酸亜鉛水和物は、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して用いられる。
- d 塩酸テトラヒドロゾリンは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問9 2】 外皮用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a インドメタシン含有の貼付剤を使用すると、適用部位の皮膚に、腫れ、ヒリヒリ感、熱感、乾燥感が現れることがある。
- b ステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象としている。
- c 打撲や捻挫の急性の腫れに対しては、温感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適すとされる。
- d 皮下の知覚神経に麻痺を起こさせる成分として、アンモニアが主に虫さされによる痒みに用いられるが、皮膚刺激性が強いため、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問9 3】 白癬及び白癬の治療に用いる抗真菌成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 爪白癬は、爪内部に薬剤が浸透しにくいいため難治性で、医療機関（皮膚科）における全身的な治療（内服抗真菌薬の処方）を必要とする場合が少なくない。
- b 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には軟膏又はクリームが適し、皮膚が厚く角質化している部分には液剤が適している。
- c ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- d ブテナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞壁に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

【問94】 歯痛薬（外用）及びその成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 齶蝕^{うしよく}を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として、テーカインが用いられる。
- 2 サンシシはアカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。
- 3 冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺^ひさせることによる鎮痛・鎮痒^{よう}の効果を期待して、アミノ安息香酸エチルが配合されていることがある。
- 4 歯痛薬により、歯の齶蝕^{うしよく}の修復が期待される。

【問95】 一般用医薬品の禁煙補助剤に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 禁煙補助剤の種類には咀嚼^{そしゃく}剤、経口液剤及び軟膏^{こう}剤がある。
- 2 妊婦、母乳を与える女性でも使用を避ける必要はない。
- 3 他のニコチン含有製剤を併用することが望ましい。
- 4 うつ病と診断されたことのある人は使用を避ける必要がある。

【問96】 滋養強壮保健薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミンDの過剰症として、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
- b ビタミンEは下垂体や副腎系に作用してホルモン分泌の調節に関与するとされており、バランスが崩れると、ときに生理が早く来たり、経血量が多くなったりすることがある。
- c 一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は10000国際単位が上限となっている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問97】 生薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カッコンは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- b ブクリョウは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。
- c ボウフウは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- d ブシは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問98】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 黄連解毒^{おうれんげどくとう}湯は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。
- b 防已黄耆^{ぼういおうぎとう}湯は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- c 防風通聖^{ぼうふうつうしょうさん}散は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）に適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	誤
5	誤	正	正

【問 9 9】 殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エタノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が弱いため、通常、人体の消毒に用いられる。
- c ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられる。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 1 0 0】 殺虫剤・忌避剤及び衛生害虫による症状に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺虫剤・忌避剤は人体に対する作用が緩和なため、医薬品として扱われることはなく、すべて医薬部外品として扱われる。
- b シラミの防除には、殺虫成分としてフェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- c 屋内塵性ダニ^{じん}に対して殺虫剤を散布する場合は、エアゾール、粉剤の使用は避け、水で希釈する薬剤を用いることが望ましい。
- d ハエ蛆症^{うじ}とは、人の体内や皮膚などに幼虫（ウジ）が潜り込み、組織や体液や消化器内^{うじ}の消化物を食べて直接的な健康被害を与える症状のことである。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- b 重要な内容が変更された場合は、改訂された箇所を明示することとされている。
- c 薬効名は、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたものであり、販売名に薬効名が含まれているような場合でも、薬効名は必ず記載しなければならない。
- d 内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回定期的に改訂されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

【問102】 医薬品の適正な使用のために必要な情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現で記載されている。
- b 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- c 医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」の記載が義務づけられている。
- d 一般用医薬品の添付文書や製品表示において、リスク区分の記載は省略されることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	誤

【問103】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症が掲げられている医薬品では、当該医薬品に含まれる成分にアレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。
- b 小児に使用される医薬品の「してはいけないこと」の項には、「服用前後は飲酒しないこと」といった小児では通常当てはまらない内容は記載されていない。
- c 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等として記載されている。
- d 医療機関で治療を受けている人が、医療用医薬品と併用する場合、治療のために処方された医薬品の使用を自己判断で控えることは適当でないため、「相談すること」の項において、「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」等として記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	誤

【問104】 一般用医薬品の添付文書において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に、妊娠期間の延長、胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため、「出産予定日12週以内の妊婦」と記載されている成分は、次のうちどれか。

- 1 スクラルファート
- 2 ロペラミド塩酸塩
- 3 アミノ安息香酸エチル
- 4 アスピリンアルミニウム

【問105】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「ぜんそくを起こしたことがある人」は、インドメタシンが配合された外用鎮痛消炎薬を使用してはいけない。
- b 「胃酸過多の症状がある人」は、カフェインを含む成分を主薬とする眠気防止薬を使用してはいけない。
- c 「妊婦又は妊娠していると思われる人」は、ジフェンヒドラミン塩酸塩を主薬とする催眠鎮静薬を使用してはいけない。
- d 「糖尿病の診断を受けた人」は、プソイドエフェドリン塩酸塩を使用してはいけない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	正

【問106】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載されている成分は、次のうちどれか。

- 1 ピコスルファートナトリウム
- 2 インドメタシン
- 3 スコポラミン臭化水素酸塩水和物
- 4 センノシド

【問107】 次の記述のうち、スクラルファートが配合された胃腸薬の添付文書の使用上の注意に、「長期連用しないこと」の旨が記載される理由として、正しいものはどれか。

- 1 倦怠感^{けん}が現れることがあるため。
- 2 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため。
- 3 眠気を生じることがあるため。
- 4 アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。

【問108】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 配置販売される医薬品の使用期限は、「配置期限」として記載されている。
- b 添加物として配合されている成分については、アレルギーの原因となる可能性があることから、すべての成分を外箱に記載する必要がある。
- c 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	誤

【問109】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書に記載のあるすべての使用上の注意が記載されている。
- b 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- c エアゾール製品には、「高温に注意」などの高圧ガス保安法に基づく注意事項が記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問110】 緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a A4サイズの青色地の印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。
- b 緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- c 製造販売業者や行政当局による報道発表や、(独)医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスの配信等によって情報伝達される。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 1 1 1】 (独) 医薬品医療機器総合機構ホームページに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報が発出されたときは、ホームページにのみ掲載される。
- b 厚生労働省が医薬品等の安全性について発表した資料が掲載されている。
- c 厚生労働省が製造販売業者等に指示した緊急安全性情報や「使用上の注意」の改訂情報が掲載されている。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 1 1 2】 一般用医薬品の購入者等に対する情報提供に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構では、一般の購入者が添付文書の内容について、購入前に閲覧できる環境の整備として、一般用医薬品の添付文書情報をホームページへ掲載している。
- b 添付文書情報が、購入前に入手できる環境が整っていない場合は、製品表示から読み取れる適正使用情報が有効に活用され、購入者等に対して適切な情報提供がなされることが重要となる。
- c 添付文書や外箱表示の記載内容が改訂された場合、改訂された内容が反映されていない製品が流通することはない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 1 1 3】 医薬品医療機器等法に規定する副作用情報等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認条件として承認後の一定期間、安全性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。
- b 薬局開設者、医療施設の開設者、医薬品の販売業者又は医師、歯科医師、薬剤師その他の医薬関係者は、製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 登録販売者には、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく副作用等の報告義務はない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 1 1 4】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 1 項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者が、その製造販売した医薬品について行う国内事例の副作用等の報告のうち、15 日以内に厚生労働大臣に報告することとされている事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できないもので、非重篤な事例
- b 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、死に至った事例
- c 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、発生傾向の変化が保健衛生上の危害の発生又は拡大のおそれがあるもので、重篤（死亡を含む）な事例
- d 医薬品によるものと疑われる感染症症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、重篤（死亡を含む）な事例

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 1 1 5】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品による副作用等が疑われる場合の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の誤用によるものと思われる健康被害は、報告の対象とならない。
- b 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても報告の対象となり得る。
- c 報告様式は、(独) 医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できる。
- d 購入者等(健康被害が生じた本人に限らない) から適切に情報を把握し、報告様式の記入欄すべてに必要な事項を記入しなければ報告することはできない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 1 1 6】 一般用医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者は、薬剤師とともに医薬関係者(専門家)として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のための活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- b 医薬品医療機器等法第 68 条の 3 には、「国、都道府県、保健所を設置する市及び特別区は、関係機関及び関係団体の協力の下に、医薬品及び医療機器の適正な使用に関する啓発及び知識の普及に努める」と規定されている。
- c 「6・26 国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年 6 月 20 日から 7 月 19 日までの 1 ヶ月間、国や関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正

【問 1 1 7】 医薬品の副作用等による健康被害の救済に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 2004 年 4 月 1 日以降に生物由来製品を適正に使用したにもかかわらず、それを介した感染等による健康被害の迅速な救済を図ることを目的とした生物由来製品感染等被害救済制度が創設されている。
- 2 (独) 医薬品医療機器総合機構は、関係製薬企業又は国からの委託を受けて、裁判上の和解が成立したスモン患者に対して健康管理手当や介護費用の支払業務を行っている。
- 3 医薬品副作用被害救済制度では、健康被害を受けた本人(又は家族)の給付請求を受けて、都道府県知事が判定した結果に基づいて、医療費、障害年金、遺族年金等の各種給付が行われている。
- 4 (独) 医薬品医療機器総合機構は、公益財団法人友愛福祉財団からの委託を受けて、血液製剤による H I V 感染者・発症者に対する健康管理費用の支給等を行っている。

【問 1 1 8】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 給付の種類は、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料がある。
- b 医療費、医療手当の給付の対象となるのは、副作用による疾病が「入院治療を必要とする程度(やむをえず自宅療養を行った場合も含む)」の場合である。
- c 障害年金、障害児養育年金については、請求の期限は定められていない。
- d 障害児養育年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある 20 歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 1 1 9】 次の一般用医薬品のうち、適正に使用したにもかかわらず、副作用によって一定以上の健康被害が生じ、医薬品副作用被害救済制度の対象となるものはどれか。

- 1 一般用検査薬
- 2 人体に直接使用する殺菌消毒剤
- 3 殺虫剤・殺鼠^そ剤
- 4 日本薬局方ワセリン

【問 1 2 0】 一般用医薬品に関する主な安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で死亡例が発生したことを踏まえ、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- b 塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による偽アルドステロン症の副作用症例が複数報告され、厚生労働省は、代替成分としてブソイドエフェドリン塩酸塩等への速やかな切替えにつき指示した。
- c 慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいこうとうを使用して間質性肺炎を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、厚生省（当時）は関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布を指示した。
- d 2003年5月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる出血性脳卒中の発生事例が、計26例報告され、厚生労働省は、一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂を指示した。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤